

根管治療後のフェルールを獲得できない前歯にエンドクラウンを用いた1症例
A case report of anterior tooth restoration using end crown



小林 祐二 Yuji Kobayashi
日本臨床歯科 CAD/CAM 学会北海道支部
You すまいる 歯科（北海道上川郡美瑛町）

1. 目的

フェルールを獲得できない前歯に対する治療は術者の知識や技術によって大きく異なる。フェルールを獲得できない前歯の治療はBPRs (Bonded porcelain restorations) のカテゴリーの中でtypeVとしてエンドクラウンが分類されることが示唆されており、術者の選択肢の1つになる可能性がある。本症例では上顎側切歯に対しエンドクラウンを用いた修復を行い良好な結果を得たので報告する。

2. 症例の概要

患者は46歳男性。歯が折れたを主訴に来院。歯根破折と診断し抜歯適応であったが患者の強い希望で保存を選択。矯正、外科処置を拒否されたためエンドクラウンによる修復を行った。

3. 経過

術後1年の結果、脱離や破折、疼痛を認めず経過良好なため患者は審美的・機能的に満足している。

4. 考察

Bonded porcelain restorations typeVは矯正や外科を用いてtypeIVに移行するのが望ましい。しかし、本症例のように望まない患者に対しエンドクラウンは有効と考える。しかし、側方力が強い咬合状態によっては前歯部、小臼歯部では適応が難しい可能性があるため慎重に選択するべきだと考える。